



150th  
Lighthouse  
ANNIVERSARY

# 海を照らして150年

～ 航路標識の歴史と現在 ～



海上保安庁交通部

# 航路標識の歴史

## 灯台のはじまり



ファロス灯台（想像図）

岬や島の上に石などで塔を建てて、焚火（たきび）や煙を上げることで、船舶の指標とすることを考え出したのが灯台の起源です。

世界でいちばん古い灯台は、紀元前279年にエジプトのアレキサンドリア港の入口、ファロス島に建てられたファロス灯台といわれています。この灯台は、高さが135メートルもあり、最上層では大理石の反射板の前で火が燃やされ、航路の目印として、夜間は約10km先からでも見えたといわれています。

我が国の灯台は「のろし」から始まります。

天智3年（664年）、壱岐、対馬等に防人を配し海岸の防備に当たった際に設けた「のろし」の位置が遣唐使の目標に好都合であったことから、昼は煙を上げ、夜は篝火（かがりび）を焚いたといわれています。



灯明台



城ヶ島篝火台（神奈川県三浦市）

## 本格的な灯台の誕生

19世紀まで、「海の明かり」には木材や石炭の火が野外でそのまま使用され、光達距離（灯台の光が届く距離）も限られていましたが、1822年、フランス人のオーギュスタン・フレネルによりフレネルレンズが考案されたほか、石油やガス等による安定した新しい光源が得られるようになり、灯台の機能は飛躍的に向上することとなりました。

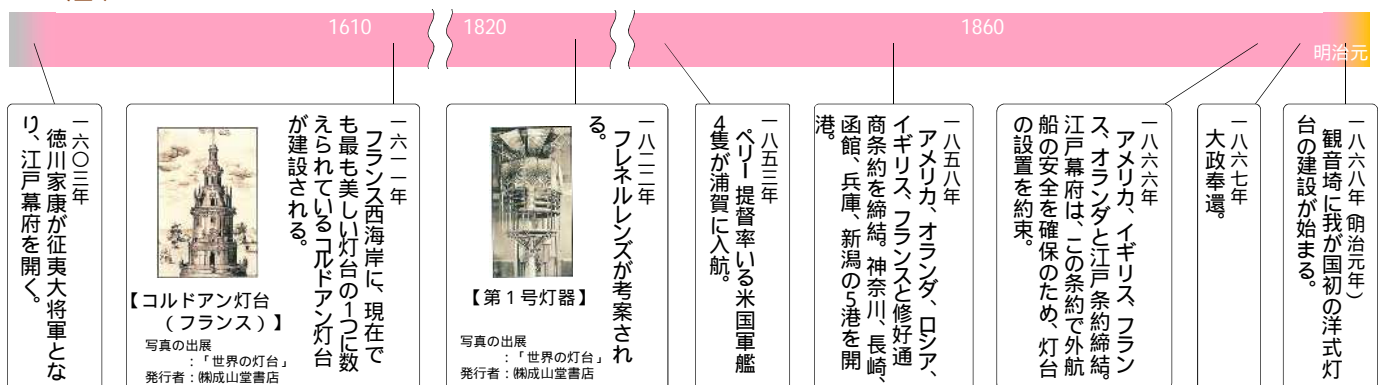
1823年、フランスのコルドアン灯台に、世界で初めてフレネルレンズが導入され、その光達距離は21海里（約39km）にも達しました。



コルドアン灯台（フランス）

写真の出展：「世界の灯台」/ 発行者：懶成山堂書店

### 江戸



## 日本における西洋式灯台の誕生

日本における洋式灯台の建設は幕末に遡ります。1866年(慶応2年)に、アメリカ、イギリス、フランス、オランダの4カ国との間で締結した改税約書(江戸条約)に基づいて、東京湾周辺など8箇所に灯台を設置することが求められます。

当時、日本には洋式灯台を建設する技術がなかったため、江戸幕府はフランスとイギリスに灯台のレンズや機械の買入れと建設の指導を依頼しました。

その後、明治新政府がこの事業を引き継ぎ、ヴェルニーを技師長とするフランス人技術者集団により、1868年(明治元年)11月1日に観音埼灯台の建設が始まりました。



初代 観音埼灯台  
(神奈川県横須賀市)



お雇外国人技師達(明治2年)



フランソワ・レオン・ヴェルニー

1870年(明治3年)までにフランス人によって観音埼灯台ほか3基の灯台が建設されましたが、その後の灯台建設事業は、ブラントンを首長とするイギリス人により1877年(明治10年)までに30基の灯台が建設され、我が国の灯台創世記の基礎が作られました。

## 日本技術者による灯台建設

ブラントンの任期満了となり、それに代わった外国人技師も1879年(明治12年)に帰国した後は、灯台建設事業は日本人の独自の手により行われることとなりました。

藤倉見達(ふじくら けんたつ)はブラントンの通訳でしたが、彼から灯台建設技術を教わり、1884年(明治17年)、初の日本人技術者として鞍碓に灯台を建設しました。

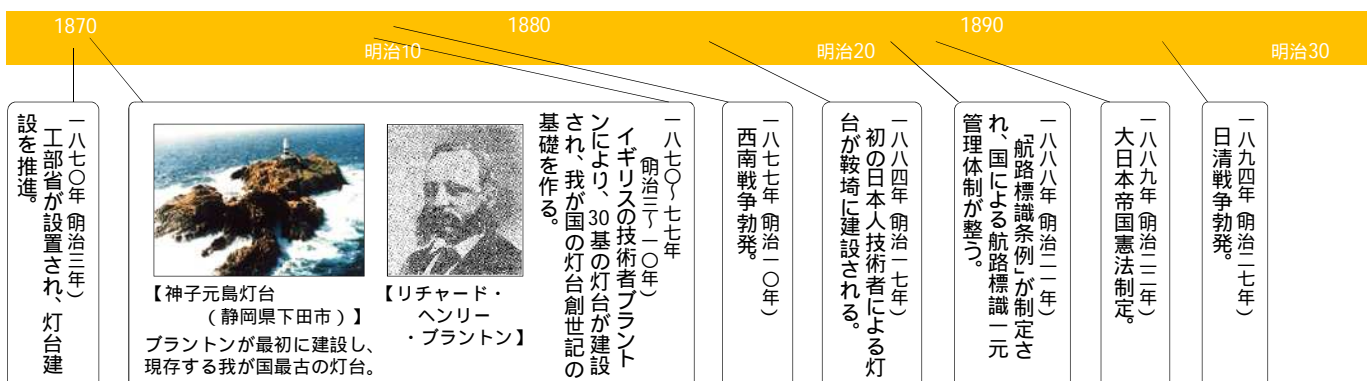


藤倉 見達



鞍碓灯台(宮崎県日南市)

明治



## 灯台守の生活

灯台のあるところには、職員とその家族の生活があり、人里離れた僻地や孤島に建てられた場所で灯台を守った人々の苦労は並大抵のものではありませんでした。

昭和10年代の当時の職員の回想録には、『(灯台での生活は)野菜を作り、鶏を飼い、海へ下りて魚を釣る。魚は自分で釣らなければ食べられない。自給自足でなければ生きることができないこの世界では、これらの作業も公務の一端としてまかり通る。野菜作りのくわが官給され、野菜畑を「菜圃(さいほ)」と呼び、国有財産の一部となっていた。「家庭の医学書」を頼りに病を治す。水は雨水で、雨が降らなければ危険な断崖の下から水を運び上げる。石油ランプの明かりが唯一の照明であり、薄暗いランプの下では、本を読むことすらできないため、貞明皇太后陛下より御下賜(ごかし)されたラジオが貴重な娯楽であるが、これもわずか10分足らずの定時放送のみであった。もちろん冷蔵庫は無いので、乾物食品が最後の頼りとなる。』と当時の厳しい生活の一端が記されています。



ラジオでくつろぐ職員と家族(昭和12年)



貞明皇后より  
御下賜のラジオ



輪投げで遊ぶ灯台の子供たち  
(年代不明)



昭和30年台当時の金華山灯台(宮城県石巻市)



昭和30年台当時の業務実施状況  
(神子元島灯台(静岡県下田市)のレンズ磨き(左)と  
石廊崎灯台(静岡県伊豆町)における方位測定(右))

明治

大正

昭和

1900

明治40

1910

大正元

1920

大正10

昭和元

一九〇四年(明治三十七年)  
日露戦争勃発。



【腕木式潮流信号機】

一九〇九年(明治四十二年)  
関門海峡及び来島海峡に潮流信号所を設置し、運用を開始。

一九一四年(大正三年)  
第一次世界大戦勃発。



【被災した初代観音崎灯台と  
二代目観音崎灯台  
(神奈川県横須賀市)】

一九二二年(大正十一年)  
浦賀水道地震により初代観音崎灯台被災、二代目観音崎灯台完成。

一九二三年(大正十二年)  
関東大震災により二代目の観音崎灯台が被災。

一九二五年(大正十四年)  
三代目となる現在の観音崎灯台完成。

一九二五年(大正十四年)  
NHKラジオ放送開始

## 戦中の灯台と空襲による殉職

1942年（昭和17年）3月、海軍省と逓信省との協定により灯台が防空監視網に編入され、敵機、敵艦船の監視や気象観測、通報業務の強化といった戦争のための施設と化し、その姿も存在を隠すために迷彩化され、灯火の指向方向を水平方向から下方へ変更し、減光・遮蔽・一時的消灯・灯質の随時変更（秘密灯台表により軍関係者にのみ周知）といった運用を行なっていました。

1944年（昭和19年）3月に足摺岬灯台（高知県土佐清水市）が空襲にあつてから、全国各地で攻撃を受けるようになりました。灯台職員は、無線連絡員とされていたことから空襲の際にも監視と状況報告が任務であったため、直ちに避難することができず、伊江島灯台（沖縄県伊江村）においては、職員三人とその家族五人が死亡するなど、尻屋埼、霧多布、金華山、塩屋埼、犬吠埼などの全国の灯台で殉職者が相次ぎました。

なお、職員全員が殉職した伊江島灯台においては、33回忌にあたる1977年（昭和52年）、全国の灯台関係者への呼びかけにより、伊江島灯台構内に「伊江島灯台殉職者慰霊碑」が建立され、毎年、伊江島戦終結の日である4月21日に灯台殉職者への慰霊が行われています。



被弾前の伊江島灯台  
（沖縄県伊江村）



再建された伊江島灯台



殉職者慰霊碑

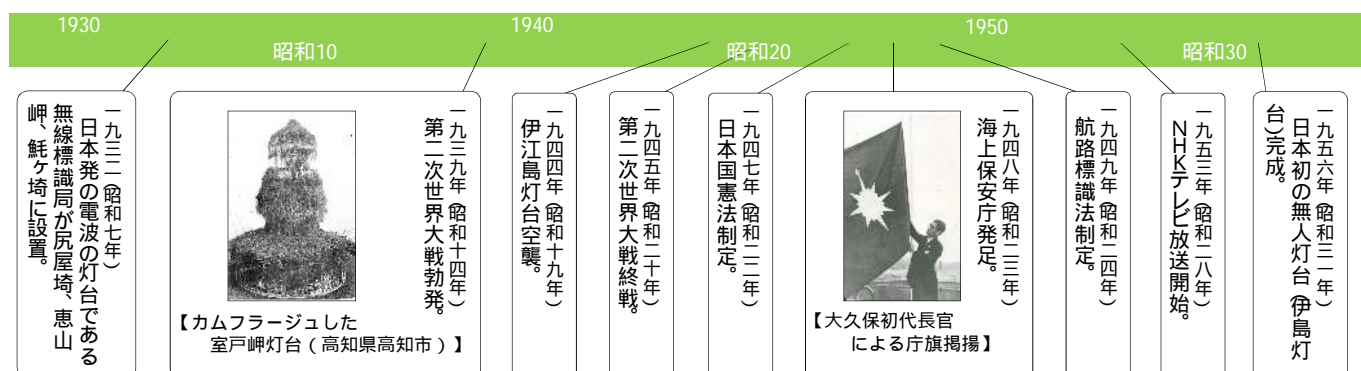


戦災を受けた臥蛇島（がじゃしま）灯台  
（鹿児島県鹿児島郡十島村）

## 戦後の復旧

1945年（昭和20年）の終戦時における我が国の航路標識総数は約1,100基となっていました。空襲等により約30%の航路標識が破壊され、残る標識も戦災や電源燃料の補給難等により、その殆どが著しく機能が損なわれていました。また、我が国周辺海域には、多数の機雷、沈船が残り、海上交通の安全の基礎は全く失われていたほか、密航・密輸、海賊行為などの海上犯罪も横行し、正に「暗黒の海」と化していました。

このため、我が国に進駐した占領軍の第一の要求は、航路障害物の除去と航路標識の復旧と整備でした。この復旧作業等は逓信省が実施していましたが、1948年（昭和23年）5月に、「海の安全」や「治安の確保」に関する行政事務を一体的に実施する警察機関として発足した海上保安庁で継続実施することとなり、1950年（昭和25年）頃までに、ほぼ戦前と同じ程度にまで、主要な灯台を復旧させました。



# 航路標識の歴史

## 新たな航路標識の始まり

我が国における電波標識は、昭和初期に設置された無線方位信号所が始まりです。船からの問合せに応じて、陸上局からの船の方向を知らせるシステムでしたが、レーダー等の普及により利用者は急激に減少しました。

双曲線航法用電波標識は、欧米で開発、実用化されたシステムです。戦後、我が国に導入され、ロランA局が1959年（昭和34年）に、デッカ局が1967年（昭和42年）に、オメガ局が1975年（昭和50年）に、ロランC局が1993年（平成5年）に運用を開始しましたが、GPS（全地球測位システム）等の普及により利用者が減少したことから、2015年（平成27年）までに廃止されました。

ディファレンシャルGPSは、中波無線局の電波を使って、GPSの精度を向上させるシステムであり、1997年（平成9年）に運用を開始しました。

1977年（昭和52年）、特に船舶交通量が多い海域において船舶交通の安全を確保するため、海上交通に関する情報を収集し、安全運航に必要な情報提供等を行う船舶通航信号所として海上交通センターを東京湾（神奈川県横須賀市）に設置し、運用を開始しました。



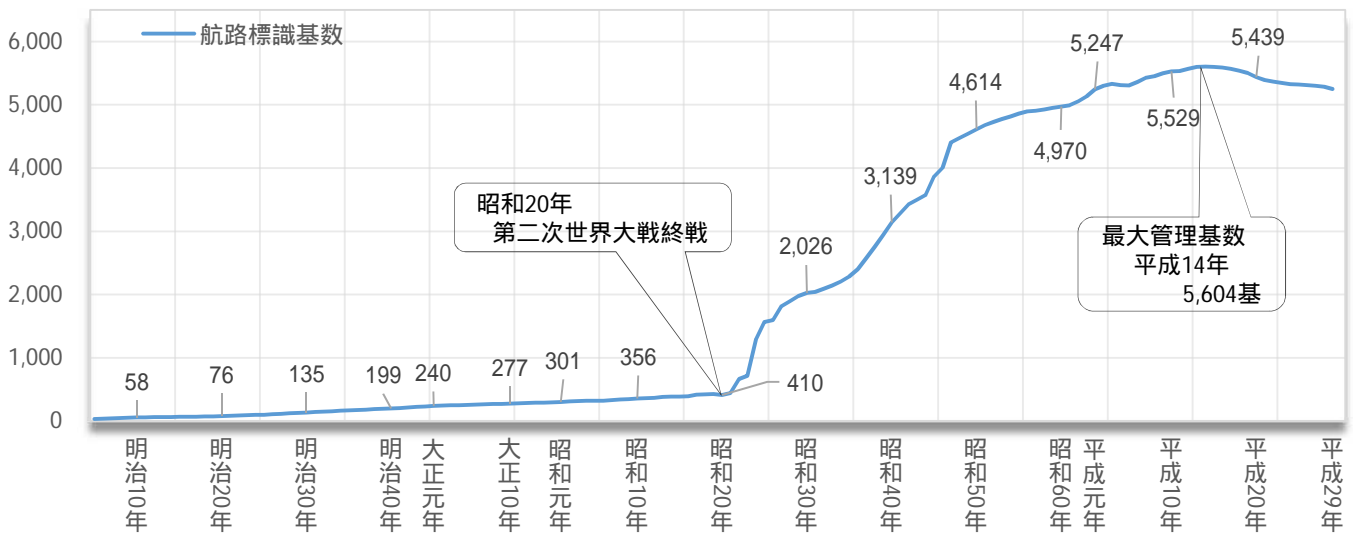
オメガ局(長崎県対馬市)



DGPS局(山形県酒田市)

## 海上保安庁が管理する航路標識基数の推移

海上保安庁発足（昭和23年）以前は、逓信省等が管理



### 昭和

<p>1960</p> <p>昭和40</p> <p>一九五九年(昭和三四年) ロランA局の運用を開始 (一九七七年まで)</p> <p>一九六〇年(昭和三五年) マイクロ波標識の運用を開始</p> <p>一九六二年(昭和三七年) 八ヶ岳レーダーの運用を開始</p>	<p>1970</p> <p>昭和50</p> <p>一九六七年(昭和四二年) デッカ局の運用を開始 (二〇〇一年まで)</p> <p>一九七五年(昭和五〇年) 対馬にオメガ局設置し運用を開始 (一九七七年まで)</p>	<p>1980</p> <p>昭和60</p> <p>一九七七年(昭和五二年) 東京湾海上交通センターを設置し、運用を開始</p> <p>平成30年1月に横浜市に移転</p>
---	--	---

## 現在の主な取り組み

新たな航路標識用の光源としてパワーLED(COB) の導入に向けた取り組みを行っています。



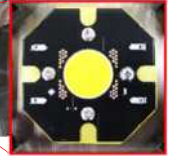
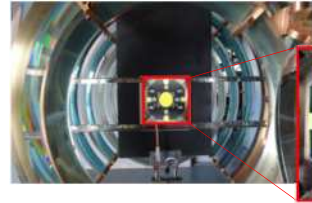
現在使用されている主な電球



ハロゲンランプ  
(寿命：1,000時間)



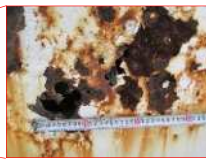
メタルハライドランプ  
(寿命：6,000時間)



パワーLED  
(寿命：60,000時間)

COB (Chip On Board) : 多数のLEDチップを直接基板に取り付けたもの

明治期に建設された灯台で残存している64基の保全を行い地域との交流に寄与しています。



外装鉄部発錆  
及び孔食状況



チタン箔保護



上塗り塗装

長寿命化を図るため、耐食性に優れたチタン箔による防食工法を採用。

掛塚灯台(静岡県磐田市) 明治30年3月25日点灯

## トピックス 灯台150周年



灯台150周年記念ロゴ

平成30年は、我が国初の洋式灯台である「観音崎灯台」が明治元年11月1日に起工してから、150周年の佳節を迎えます。

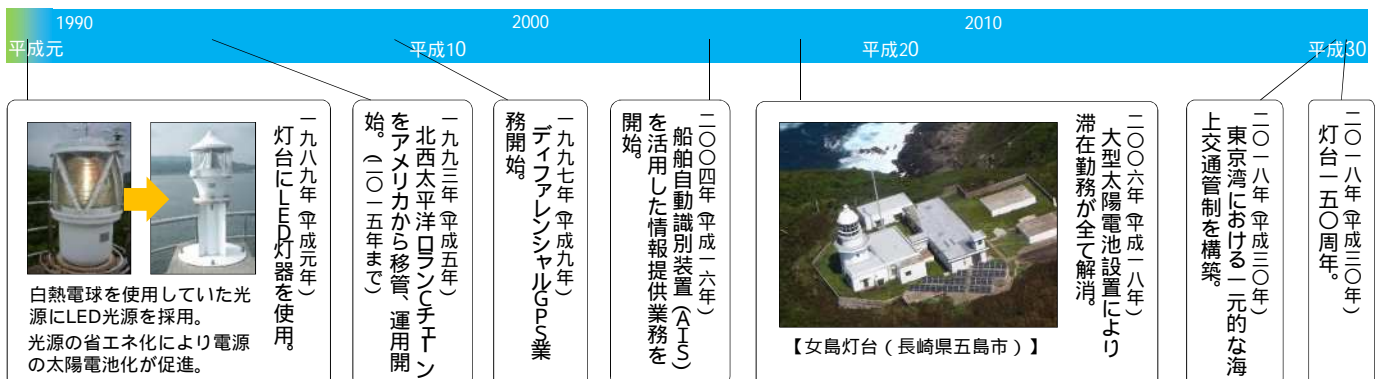
海上保安庁では、これを機に、更なる海上交通安全思想の普及や地方公共団体等との連携強化を図るため、次のイベントを全国各地で実施します。

- ・全国各地の航路標識施設等の一般公開、展示会等開催
- ・参観事業の拡充
- ・灯台カードDigital開始
- ・特殊切手「灯台150周年」発行
- ・灯台150周年記念展示会
- ・灯台150周年記念式典 等



特殊切手「灯台150周年」  
(平成30年9月3日 日本郵便(株)発行)

## 平成



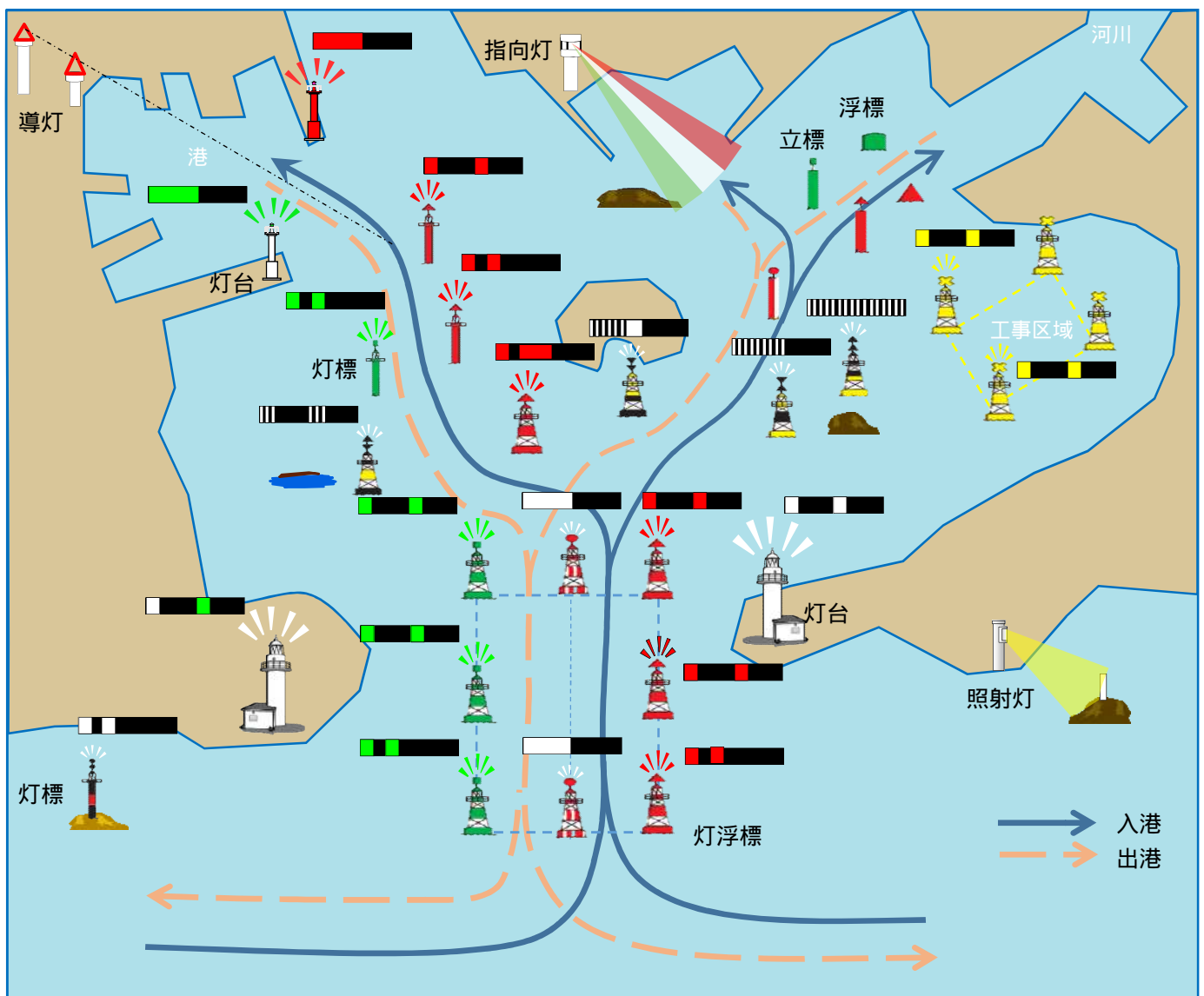
# 航路標識の役割

航路標識は、灯光、形象、彩色、音響、電波等の手段により、我が国の沿岸水域を航行する船舶の指標とするための施設であり、岬の先端に立つ灯台、岩礁などの障害物の存在を知らせる灯標、航路の入り口を示す灯浮標に代表され、その設置目的に応じて種類が異なります。また、外国船舶も含め不特定多数の船舶が広く利用することから、塗色、形状、灯色、光り方等の性質に関して国際的な基準があり、我が国においても国際的な基準に準拠しています。

船舶は、特別な航法の規定がある海域を除き、自由航行が原則であり、水深と自船の喫水との関係から安全かつ能率的な航海計画を立て、その航海計画に基づき常に自船の位置を確認しつつ、航行上の危険となる岩礁や構築物などの障害物を避け、目的地まで航海します。

航海する船舶にとって航路標識は、自船の位置や障害物の位置を確認する際に必要不可欠なものであり、船舶交通の安全確保を図るため、重要な役割を果たしています。

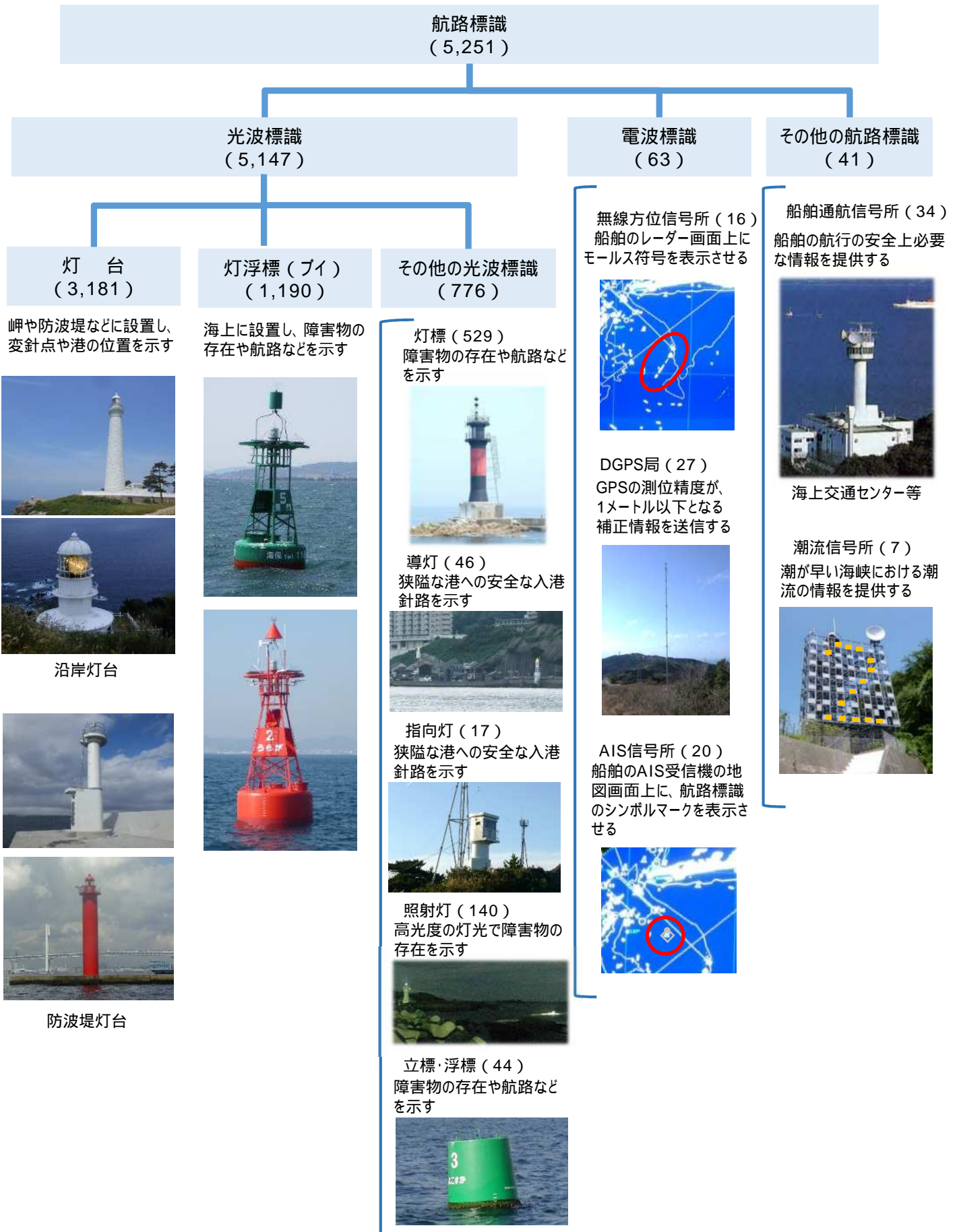
## 航路標識の設置例





# 海上保安庁が管理する航路標識

( )内は航路標識の基数  
平成30年4月1日現在



# 全国の主要な灯台

**22 経ヶ岬灯台** 明治期A  
 京都府京丹後市  
 明治31年12月25日点灯  
近代化遺産



**21 鋸崎灯台** 史跡  
 福井県大飯郡おおい町  
 昭和26年2月26日点灯



**鋸崎灯台(敷地)** 史跡



**20 立石岬灯台** 登録有形  
 福井県敦賀市  
 明治14年7月20日点灯  
明治期C



**24 出雲日御碕灯台** 明治期A  
 島根県出雲市  
 明治36年4月1日点灯  
参観灯台  
登録有形  
近代化遺産



**23 美保関灯台** 明治期A  
 島根県松江市  
 明治31年11月8日点灯  
登録有形  
近代化遺産



**26 六連島灯台** 下関指定  
 山口県下関市  
 明治4年11月21日点灯  
明治期B



**25 角島灯台** 明治期A  
 山口県下関市  
 明治9年3月1日点灯  
参観灯台  
下関指定  
土木遺産  
近代化遺産



**28 都井岬灯台** 参観灯台  
 宮崎県串間市  
 昭和4年12月22日点灯



**27 部埼灯台** 明治期A  
 福岡県北九州市  
 明治5年1月22日点灯  
近代化遺産



**30 水ノ子島灯台** 明治期A  
 大分県佐伯市  
 明治37年3月20日点灯  
近代化遺産



**29 鞍埼灯台** 明治期A  
 宮崎県日南市  
 明治17年8月15日点灯  
近代化遺産



**34 男木島灯台** 明治期A  
 香川県高松市  
 明治28年12月10日点灯  
土木遺産  
近代化遺産



**33 鍋島灯台** 明治期A  
 香川県坂出市  
 明治5年11月15日点灯  
近代化遺産



**32 釣島灯台** 明治期A  
 愛媛県松山市  
 明治6年6月15日点灯  
近代化遺産



**31 佐田岬灯台** 登録有形  
 愛媛県西宇和郡伊方町  
 大正7年4月1日点灯



**38 平安名埼灯台** 参観灯台  
 沖縄県宮古島市  
 昭和47年5月15日点灯



**37 残波岬灯台** 参観灯台  
 沖縄県中頭郡読谷村  
 昭和49年3月30日点灯



**36 室戸岬灯台** 明治期A  
 高知県室戸市  
 明治32年4月1日点灯  
近代化遺産



**35 江崎灯台** 明治期A  
 兵庫県淡路市  
 明治4年4月27日点灯  
近代化遺産



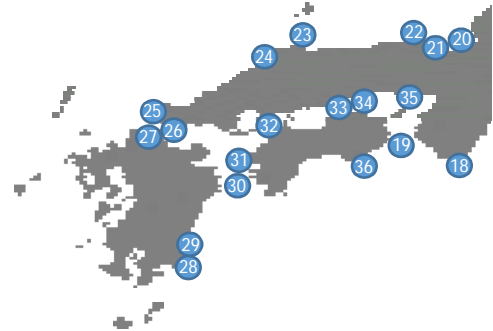
1 明治期A : 23基

2 参観灯台 : 16基

文化財 : 18基

**内 訳**

<span>史跡</span>	史跡	2基
<span>登録有形</span>	登録有形文化財	14基
<span>下関指定</span>	下関指定文化財	2基



1...現存するAランク明治期灯台  
 2...参観灯台とは、航路標識事業に対する国民のご理解を深めていただく趣旨をもって、通年、一般に公開している灯台をいう。  
 現在、公益社団法人 燈光会が参観事業を行っている。

① 祿剛埼灯台  
石川県珠洲市  
明治16年7月10日点灯

明治期A  
近代化遺産



② 姫埼灯台  
新潟県佐渡市  
明治28年12月10日点灯

明治期A  
近代化遺産



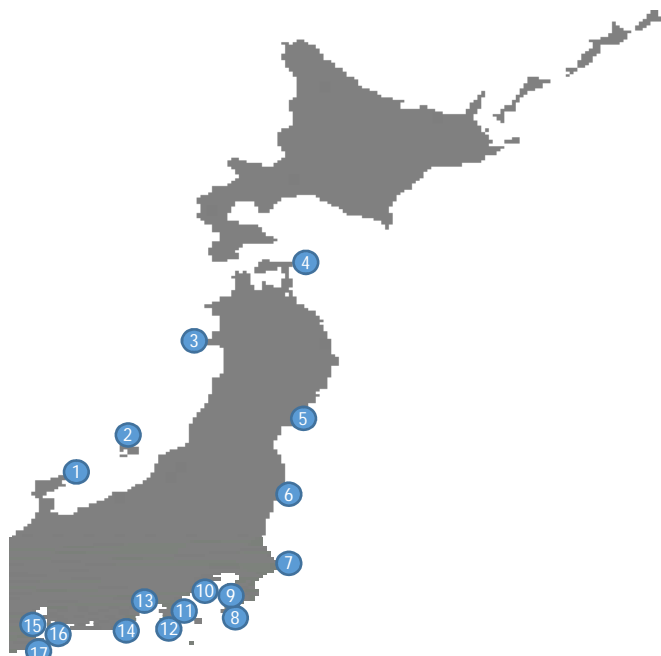
③ 入道埼灯台  
秋田県男鹿市  
明治31年11月8日点灯

参観灯台



④ 尻屋埼灯台  
青森県下北郡東通村  
明治9年10月20日点灯

明治期A  
参観灯台  
登録有形  
土木遺産  
近代化遺産

⑤ 金華山灯台  
宮城県石巻市  
明治9年11月1日点灯

明治期A  
登録有形  
近代化遺産



⑥ 塩屋埼灯台  
福島県いわき市  
明治32年12月15日点灯

参観灯台



⑦ 犬吠埼灯台  
千葉県銚子市  
明治7年11月15日点灯

明治期A  
参観灯台  
登録有形  
近代化遺産



旧犬吠埼霧信号所霧笛舎

登録有形



⑧ 野島埼灯台  
千葉県南房総市  
明治2年12月18日点灯

参観灯台  
登録有形



⑨ 洲埼灯台  
千葉県館山市  
大正8年12月15日点灯

登録有形



その他

- 明治期B 現存するBランク明治期灯台
- 明治期C 現存するCランク明治期灯台
- 土木遺産 土木遺産（公益社団法人 土木学会）  
チキウ岬灯台ほか
- 近代化遺産 近代化産業遺産群（経済産業省）  
尻屋埼灯台ほか
- 機械遺産 機械遺産（一般社団法人 日本機械学会）  
樫野埼灯台

⑩ 観音埼灯台  
神奈川県横須賀市  
明治2年1月1日点灯

参観灯台  
近代化遺産



⑪ 初島灯台  
静岡県熱海市  
昭和34年3月25日点灯

参観灯台



⑫ 神子元島灯台  
静岡県下田市  
明治3年11月11日点灯

明治期A  
史跡  
近代化遺産



⑬ 清水灯台  
静岡県静岡市  
明治45年3月1日点灯

明治期A  
土木遺産  
近代化遺産



⑭ 御前埼灯台  
静岡県御前崎市  
明治7年5月1日点灯

明治期A  
参観灯台  
近代化遺産



⑮ 菅島灯台  
三重県鳥羽市  
明治6年7月1日点灯

明治期A  
登録有形  
近代化遺産



⑯ 安乗埼灯台  
三重県志摩市  
明治6年4月1日点灯

参観灯台  
登録有形



⑰ 大王埼灯台  
三重県志摩市  
昭和2年10月5日点灯

参観灯台  
登録有形



⑱ 潮岬灯台  
和歌山県東牟婁郡串本町  
明治6年9月15日点灯

明治期A  
参観灯台  
近代化遺産



⑲ 友ヶ島灯台  
和歌山県和歌山市  
明治5年6月25日点灯

明治期A  
登録有形  
近代化遺産

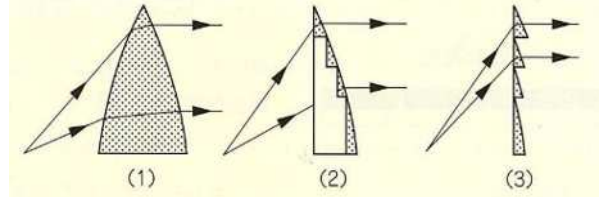


# 灯台の機構

## フレネルレンズ

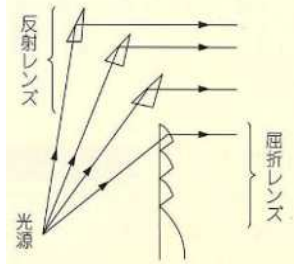
灯台用レンズは、1822年にオーギュスタン・フレネルが考案したことから「フレネル式レンズ」と呼ばれており、レンズの焦点距離によって1等から順に6等まで等級があります。

また、光源には特殊な電球を使用していますが、明治期には、石油やガスを燃焼させた光源を使用していました。



フレネル・レンズ

フレネルレンズとは、本来の大きい凸レンズの厚く重いという欠点を解決するために考案されたもので、同時に作製が容易となるとの利点もあるものです。  
(考え方は(1)~(3)を参照)  
このほか、特に強い光が必要な大型灯台のレンズには、図(4)の反射レンズを組み合わせたものもあります。



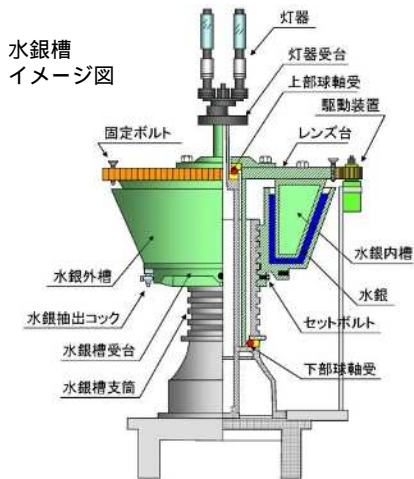
(4) 大型フレネルレンズの断面

## 回転機械

数トンもある灯台用レンズを水銀槽に浮かべることによって回転抵抗を軽くさせる「水銀槽式回転装置」が使用されてきました。

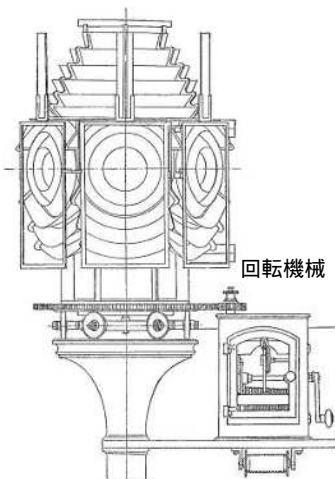
灯台内（または灯塔内）を落下する分銅に働く重力を動力源として回転機械を介して灯台用レンズを回転させていましたが、現在は電動化されています。

(現在55ヶ所の灯台に設置)



水銀槽式回転機械

回転機械イメージ図



回転機械



回転機械



分銅

# 皇室からのお慈悲

明治5年6月12日、明治天皇が京阪、山陽、西海巡幸の折、六連島灯台（山口県下関市）を行幸されて以来、職員慰安のための御下賜（ごかし）や永年勤続職員の陛下拝謁、記念式典へのご臨席、お茶会へのお招きなどを頂いています。

## 灯台への行幸啓

明治7年3月18日、横浜にあった交通部の前身である工部省灯台寮を訪れ、竣工したばかりの試験灯台を明治天皇、昭憲皇后がご視察。



明治天皇



ご視察を記念した行幸碑  
（横浜海上保安部敷地内）

## 貞明皇后からのお慈悲



貞明皇后



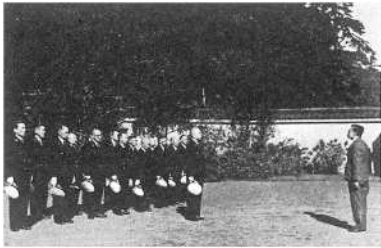
灯台に配布されたラジオを囲む職員家族



灯台に配布された花瓶

灯台職員の生活に深く同情され、職員慰安のための御下賜（ごかし）とラジオなどをいただいた。

## 永年勤続職員の陛下拝謁



（昭和26年～平成15年まで）

## 記念式典へのご臨席等



東京湾海上交通センター  
10周年記念式典



城ヶ島灯台



灯台百年記念式典



平成27年お茶会

## お茶会へのお招き

## 多摩東陵墓勤労奉仕

貞明皇后からの御下賜金により、大正13年10月に燈光会が設立されたことから、貞明皇后の命日（5月17日）の前に、燈光会職員及び交通部職員により、毎年勤労奉仕（清掃活動等）を行っています。



## 地域の観光資源

灯台の歴史的、文化的価値を改めて認識し、地方公共団体等による灯台の観光資源としての活用等を積極的に促すことにより、海上安全思想の普及を図り、これを通じて地域活性化にも一定の貢献を果たしていきます。

具体的には地方公共団体等をはじめとする関係団体等と連携し、参観灯台（いわゆる登れる灯台）や一般公開の拡大を図り、あわせて灯台の歴史や灯台守の活躍等にかかる情報発信等を推進していきます。



鮫角灯台（青森県八戸市）の一般開放（平成25年4月～）



尻屋崎灯台（青森県東通村）の参観事業化（平成30年6月～）



犬吠埼灯台（千葉県銚子市）における灯台の資料展示

## デザイン灯台

地域の観光資源、特産品などをモチーフに、あるいは港周辺の歴史的な街並みとの協調を図るなどにより、地方自治体などと連携して、灯台のデザイン化を行っています。



小田原港新号防波堤灯台（神奈川県小田原市）街の特産品である「小田原ちようちん」をモチーフとしています。

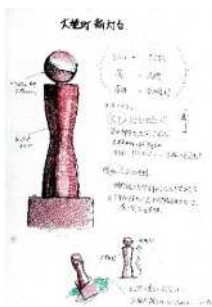


御手洗港防波堤灯台（広島県御手洗港）港周辺に現存する江戸時代の建物群に溶け込むデザインです。



淡輪港西防波堤灯台（大阪府泉南郡岬町）本港で開催された国体ヨットレースに因んだデザインです。

### トピックス 大槌港灯台（岩手県大槌町）



公募されたデザイン



大槌港灯台（岩手県大槌町）

NHKの人形劇「ひょっこりひょうたん島」のモデルになったといわれる岩手県大槌町蓬莱島（ほうらいじま）にある大槌港灯台は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の津波により倒壊しました。

この本復旧に際しては、海上保安庁として初めてとなる灯台デザインの公募を大槌町民から募り、太陽と砂時計をイメージした作品が採用され、再建されました。太陽には「町の未来を明るくしたい」という願いが、砂時計には「時が経てば必ず復興できる」という願いが込められています。

## 灯台愛好者・団体

灯台を大切にしたいとする多くの方々に様々な活動を通じて、ご理解、ご協力をいただいています。



灯台女子（不動まゆ氏）



「美しい部埼灯台を守る会」



日本財団「海と日本プロジェクト」/日本ロマンチスト協会

このほか、犬吠埼プラントン会などの方々が航路標識の整備業務にご理解、ご協力をいただいています。

## 世界の灯台

写真の出版：「世界の灯台」/発行者：株式会社山堂書店

### キャスクエッツ灯台 (イギリス)

初点：1723年  
イギリス海峡のオルダニー  
沖でキャスクエッツと呼ばれ  
る危険な岩礁付近を明示する  
ために建てられた灯台です。



### ジャンシンユ灯台(中国)

初点：869年  
島の両端建てられ、導標として利用されている灯台です。  
1981年に中国の文化遺産に指定されました。



### ケルオン灯台 (フランス)

初点：1916年  
ウエサン島の南東  
にあるメンテンセル  
岩礁に建てられた灯  
台です。



### ボストン灯台 (アメリカ合衆国)

初点：1716年  
合衆国となって最初  
に建設された灯台で  
す。



### アガラス岬灯台(南アフリカ)

初点：1849年  
アフリカ大陸の最南端であるア  
ガラス岬に建てられてた灯台  
です。



### ホースバーフ灯台 (シンガポール)

初点：1851年  
マラッカ海峡を望む位置  
に建てられたシンガポール  
で最も古い灯台です。



### バイアフェリックス灯台 (チリ共和国)

初点：1905年  
南アメリカ大陸の南、マゼラン  
海峡を望む  
位置に建てられた灯台です。

# お問い合わせ先

事務所名	郵便番号	住所	電話番号
海上保安庁	100-8976	東京都千代田区霞が関2-1-3	03-3591-6361
第一管区海上保安本部	047-8560	北海道小樽市港町5-2	0134-27-0118
第二管区海上保安本部	985-8507	宮城県塩釜市貞山通3-4-1	022-363-0111
第三管区海上保安本部	231-8818	神奈川県横浜市中区北仲通5-5-7	045-211-1118
第四管区海上保安本部	455-8528	愛知県名古屋市港区入船2-3-12	052-661-1611
第五管区海上保安本部	650-8551	兵庫県神戸市中央区波止場町1-1	078-391-6551
第六管区海上保安本部	734-8560	広島県広島市南区宇品海岸3-10-17	082-251-5111
第七管区海上保安本部	801-8507	福岡県北九州市門司区西海岸1-3-10	093-321-2931
第八管区海上保安本部	624-8686	京都府舞鶴市字下福井901	0773-76-4100
第九管区海上保安本部	950-8543	新潟県新潟市中央区美咲町1-2-1	025-285-0118
第十管区海上保安本部	890-8510	鹿児島県鹿児島市東郡元町4-1	099-250-9800
第十一管区海上保安本部	900-8547	沖縄県那覇市港町2-11-1	098-867-0118

## < 職員募集 >

### 総合職試験

政策の企画立案、技術開発・研究等の経験を積み、将来的には幹部職員として海上保安行政に携わります。

- 院卒者試験 : 30歳未満で大学院修了及び大学院修了見込みの者
- 大卒程度試験 : 21歳以上30歳未満の者  
21歳未満で大学卒業及び大学卒業見込みの者
- 試験区分 : 「工学」、「数理科学・物理・地球科学」
- 受付期間 : 4月上旬

### 海上保安学校学生採用試験

海上保安庁の各分野における専門の職員を採用しています。

交通部に関連する課程には、通信機器の運用・管理と航行安全に必要な知識・技能を習得する**情報システム課程**と船舶交通を管制する業務に関する知識・技能を習得する**管制課程**があります。

- 高卒程度試験 : 高等学校卒業見込みの者及び高等学校卒業後5年を経過していない者等
- 受付期間 : 7月中旬～下旬

### 土木建築部門職員選考採用

管区海上保安本部において、航路標識を整備するための設計、積算、予算執行、検査等の事務に従事するほか、航路標識の腐食、損傷その他劣化状況の点検業務に従事する職員を採用しています。

- 二級建築士以上の資格を有し、建築に関する業務経験を通算13年以上(大学を卒業した者にあつては9年以上)有する者等
- 受付期間 : 8月～9月



海上保安庁総合職採用試験ホームページ  
<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/saiyo/index.html>  
国家公務員試験採用情報NAVI  
<http://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.htm>

海上保安学校学生採用試験ホームページ  
<http://www.kaiho.mlit.go.jp/ope/saiyou/bosyu.html>  
海上保安学校ホームページ  
<http://www.kaiho.mlit.go.jp/school/index.html>



海上保安庁  
ホームページ